

# ◎五輪開催招致への職員提案

編集部

## 1 提案募集の概要

二〇〇八年オリンピック・パラリンピックの開催招致に向けて、横浜市では市民からのアイデア募集を行っているが、これと並行して編集部（企画局調査課）では、本市職員を対象とした提案募集を昨年暮れから行ってきた。応募の呼びかけは庁内各課へのチラシ回覧により実施。呼びかけの際の締め切りは今年一月二十日とし、この日までに寄せられた提案件数は百三件、応募者数は三十一人で、一人当たりの最多応募件数は十五件であった。

## 2 応募の集計結果

寄せられた百三件の提案は、開催概要計画書（開催提案書）の作成に向け庁内で組織された二十七のプロジェクトでの検討テーマ別に分類した。分類の結果は表のとおりで、十二の検討テーマにわたって提案がなされたことになる。この分類にしたがって、すべて

の提案を各プロジェクトでの検討の素材として提供した。ただし、一件の提案が複数のテーマを含むものも多数見受けられたため、こういった複数テーマにわたる提案はそれぞれのテーマで一件とカウントし、それぞれのプロジェクトへ提供された。

集計の結果、大会の盛り上げ方策に関する提案が二十件と最も多く寄せられ、次いで地元でのオリンピックムーブメントの高揚策など広報に関する提案が十八件、交通アクセスに関する提案が十六件などとなった。

## 3 主な提案内容

応募された一つ一つの提案は、いくつかの個別提案の前にそれらの趣旨や理念などを述べているものや、箇条書きで個々のアイデアを記述したもの、概念図を用いてわかりやすく提案内容を表現したものなど、その形式は実に様々である。紹介にあたってはできるだけ提案の趣旨を損なわないよう努めたつもりであるが、提案者から見て提案の意図が表現

- 1 提案募集の概要
- 2 応募の集計結果
- 3 主な提案内容
- 4 二〇〇八年に向けて

表 検討テーマ別の提案件数

検討テーマ	提案件数
大会の盛り上げ方策	20
広報・報道関係（含地元でのオリンピックムーブメントの高揚策）	18
交通アクセス	16
オリンピック選手村	11
文化プログラム	11
福祉の街づくり推進	11
競技会場・練習会場（含他都市との比較）	11
競技運営	10
交通輸送（国際アクセス他）	9
大会期間、競技プログラム	7
パラリンピックの組織・運営	7
国際交流事業	6
ボランティアの雇用	4
財政計画	3
観客宿泊施設	3
開会式・閉会式のセレモニー	2
選手強化	2
自然環境保護	2
情報ネットワーク	2
報道関係宿舎	1
安全対策（基本計画、治安方法、危機管理）	1
医療サービス（含ドーピング、性識別テスト）	1

注) 複数テーマに係る提案は、各テーマに1件とカウント（ダブルカウント）している

されていないものもあるかもしれない。責めはすべて編集部にあり、応募いただいた提案者にはここであらかじめおわびする次第である。

## ① インターナショナル家族対抗スポーツ大会

これは提案者から、「五輪都市を目指す5つの提案」と題して寄せられた提案の一つである。提案者によると、「これから十一年後に、本当の五輪都市、オリンピックを開催するのにふさわしい都市が生まれるにはどんなプログラムが必要だろうか」という視点で考えたものだという。(以下全文掲載)

二十世紀は人類史上初めて、急激な人口増加と都市への人口集中が進んだ時代である。このため、廃棄物や食糧危機などの地球環境問題を引き起こすとともに、人権問題や貧困問題など一人一人の人間生存に関わる課題が非常に大きくなってきている。

そんな中でアジアは経済成長などの面で比較的元気な地域である。その原点は生活向上などに向ける人々の目的達成意欲や集団としてのまとまりの良さとして、西欧諸国に比べ良い意味でも悪い意味でも「家族」主義的なパワーがあるとされる。

以前に「家族対抗歌合戦」という番組があった。テレビを見る人は、視聴者よりも出演した家族の方が盛り上がる様子を見、その中に「ほほえましいもの」を感じわが家を感じる、といった行動パターンであった。当時は学生であった自分は、つきあいきれないなど思いながらも、その異様な盛り上がり方に強

い印象を持ったものだ。

アジアでのオリンピックは「家族」が大きなたマになると思う。封建時代のように家長的な家族像ではなく、個人を尊重し認め合いながら支え合う新しい家族像が望ましい。夫婦、親と子、三世代、多家族など様々な形態があるが、最も身近な人間同士のコミニケーションがうまくいかない限り、社会的なつながりも見えてこない。アジア文化における家族の良さを世界に伝えることはますます有意義になるだろう。

横浜は東京や大阪とは異なり住宅都市としての性格を強く持っている。ベッドタウンはそれだけ家族の団らんや家族単位のレジャーを志向する都市だと言える。本格的な高齢化社会を迎える中で、家族の意義をもう一度わかりやすく問い直すことは重要である。

横浜五輪のイベントとして「インターナショナル家族対抗スポーツ大会」を開催してどうか。世界各国から様々な団体競技の家族チームの参加を呼びかける。競技の勝ち負け以上に、家族とのつながりの美しさが見られるだろう。また、出場する家族同士の交流を深め、老年・壮年・青少年など多年齢層にわたる「立体的な交流」ができるだろうし、儀礼ではなく生活感ある「手触りの国際交流」が可能になる。

わが家は妻と中学と小学の男子の四人家族だ。四人制のバスケットボールや水泳のメドレーリレーなどに出場を目指したいと思う。三世代家族のサッカーチームで、十歳の孫のセンタリングのボールを七十歳のおじいちゃんがびかりとヘディングシュートする様子に

は、人間性の開放を目指すオリンピックの原点がきつと見えるだろう。

## ② 文化プログラムの提案 (以下一部項目を除き原文のまま)

### ●趣旨

オリンピックは、世界最大のスポーツの祭典であると同時に、人類平和の象徴的イベントでもあります。さまざまな民族の人々が、同じルールのもとで競い合うスポーツの数々は、平和の貴さを何よりも実感させてくれるものです。

同時に、単にスポーツにとどまらず、広く文化的な営みも、民族の融和と国際交流の視点から世界的な視野でとらえなおし、横浜から新しい時代の芸術文化を発信していくことで、オリンピックの人類の祭典としての意義がより一層深まるものと考えられます。

### ●基本理念—WORLD ART FESTIVAL IN YOKOHAMA 「みなとをひらく」

横浜は、黒船が来航し、開港したという歴史をもっています。オリンピックの開催を機に、国際社会に対して、あらたな「開港」を行い、世界に開かれた国際都市となるとともに、さまざまな民族が心から融和できるフォーラムとしての真のホスピタリティをもった都市として成長を果たす決意を、基本理念とします。

イベント内容は、横浜の歴史性を生かしつつ、あらゆる民族・国家に開かれたものとし、日本の文化の粋を集めるばかりでなく、世界の文化の多様性・すばらしさをあらためて認

識できる場としていきます。

キーワードは「新・開港」「交流」「未来」です。

●五つの柱（五つの柱が五輪を象徴します）  
(1) 五大陸からやってくる「新・黒船」

昔横浜には、アメリカから黒船がやってきて、開港したという歴史があります。二〇〇八年のオリンピックの際には、今度は北アメリカ大陸だけでなく、五大陸すべてから、新しい黒船を招き、新たな開港を象徴するイベントとします。黒船には、それぞれの大陸を代表する芸術や伝統芸能、歴史を語る古美術品などを満載した「ピースボックス」を積んでいます。

横浜港に到着した後、新・黒船は港にオリンピック期間中係留され、オリンピックの観客や選手に一般公開されます。

(2) リメイク・ザ・横浜居留地

開港直後の横浜には、外国人が住むための横浜居留地がつけられました。そこは、日本人居住地とは分けて設置されており、幕府の外国人に対する警戒心を示すものになっていました。しかし時代は二十一世紀です。オリンピックを記念してつくられる新しい「横浜居留地」は、幕末の居留地とは異なり、横浜が世界に開かれていることを示すものになります。

場所は、選手村に隣接する地区に設置します。参加するすべての国のブースを設け、そのブースでは、各国の民族衣装、楽器等が展示されるとともに、各国を代表する花（植物）が飾られ、選手村一帯を美しく彩ります。

また、選手村と隣接していることで、各国

選手と観客が交流する空間ともなります。

(3) みらいへつなぐ「二〇〇〇年モニユメント」

かつて横浜を訪れた人が「二〇〇〇年あとまで、親しいおつきあいを」という挨拶をしたということが言われています。今度は横浜から世界に向けて「二〇〇〇年あとまで」の変わらぬ交流を願いましょう。

その気持ちを記念して、メイン会場の近辺に、大会のシンボルとなるモニユメントを建設します。デザインは、国際的に活躍しているアーティストに依頼し、製作は、みらいを担う子供たちがアーティストの指導のもとに行います。

(4) ヨコハマ・アース・ステージ

世界には、様々な種類の音楽があり、すばらしいミュージシャンもたくさんいます。アースステージ（地球のステージ）と名付けられたステージでは、音楽のオリンピックともいべきイベントを開催します。人類がこれまでつくりあげてきた様々な音楽を、我々はすべて地球の上で共存しているという認識から、横浜を「地球のステージ」としてとらえ、様々な音楽を演奏します。

具体的には、世界中にある太鼓の演奏、様々な発声法で歌う各国の合唱団体の共演、オリンピック記念委嘱作品の演奏等です。

(5) スポーツ・アート・パフォーマンス

スポーツは、人間の肉体を極限まで酷使することで、時に、ある崇高な美しさを現すことがあります。その意味でスポーツは、一種の芸術であると言ってもいいでしょう。だからこそ私たちは、選手のすばらしいプレーを見たときに「芸術的だ」といった感想をもつ

のではないのでしょうか。

そうしたスポーツのもつ美しさを、アイスダンスのエキシビジョンのようなイメージで、新しい形のパフォーマンスとして表現します。ここでは、スポーツと芸術がひとつに溶け合い、混じりあって、人間の存在そのものの美しさが実感できるとともに、みらいに向けての新しい芸術の形が示されることでしょう。

③ 選手と市民の交流についての提案

提案は「オリンピックを市民の手に取り戻すーヒューマンルネッサンスー個別事業提案」と題して、四件の個別事業提案からなっている。このうちの一つを紹介する。（以下全文掲載）

「新しい時代の生活（ライフスタイル）が感じられるオリンピック」

オリンピックの選手といえども、自分の時間や家族また地球環境を大切に、豊かな時間を過ごしているのだ。みんな、もつと豊かに生きようよ、というメッセージが伝わるよう工夫する。

(例)

●参加選手の趣味や特技を調べて、「こんなことができる市民がいる」「こういうものを入手できる」という事前インフォメーションを選手に渡し、競技終了後の市民交流を図る。歌や楽器、絵画などに興味のある選手がいたら、その分野の一流の人たちとの交流、合奏・合唱をアレンジ（スポーツと文化の交流）。花づくり（蘭など）、野菜づくりが得意な選手がいたら、その分野の一流の人たちとの交

流をアレンジ（自然に親しむスポーツ選手の姿もまた、美しい）。

●子供たちが考え出したユニークな遊びやスポーツ種目に、一流選手に参加してもらう（子供を大切にする選手、何にでも手を抜かない姿を広く紹介）。

●オリンピックの森、オリンピックの水辺、オリンピック菜園など、一流選手とともに、自然系の何かをつくりあげる。

この他にも、選手との交流についてはいくつかの提案があった。その一つを紹介する。

「各国選手に喜びや感激の手紙が誰でも出せることはどうでしょうか。そこから新しいネットワークができるかもしれません。特にパラリンピックにおいてはそうでしょう。翻訳をしてくれる人がいればなおさらです。」

#### ④ マラソンコースの提案など

技術職の職員からの提案には、その専門的な知識を生かしたものが多く見受けられた。以下に紹介するのは、そうした提案の一つである。（以下、複数提案の一部を掲載）

フルマラソンコースを都市計画道路環状2号線を使用して走ることを提案します。環状2号線は、磯子区森三丁目を起点として鶴見区上末吉五丁目までの二・四・五キロの道路で、幅員が四十二メートルあり、主要道路とは立体交差になっています。横浜市が数十年間をかけて造ってきた新しい道路で、二〇〇八年には全線開通しているでしょう。

コースとしては、港北区のメイン競技場（横浜国際総合競技場）をスタートし、都市計画

道路新横浜・元石川線に出て、同宮内新横浜線を経て、環状2号線に入ります。新横浜駅前を右折して、一路、磯子方面へ南下し、屏風ヶ浦駅付近で折り返し、同じコースを新横浜まで戻ります。

競技場から新横浜駅までの距離があるので、鶴見方面へは行かずに駅前を左折してゴールに向かえば、四二・一九五キロは確保できると思います。

まったくの折り返しコースですが、七区にまたがり、ほぼ横浜市の中心部を走るようになります。

この提案者からは、この他にも七件の提案があった。その中から二つを紹介する。

「報道関係者を新市庁舎に仮使用する提案  
新市庁舎が計画されていますが、この新市庁舎を二〇〇八年の寸前までに完成させ、開催時に報道関係者に使用してもらい、終わってから市役所が引越します。新市庁舎はインターネット化されていると思いますし、ベッドを持ち込めば宿舎にもなるでしょう。また、新市庁舎がオリンピックの年に出来るとなれば、一番いい記念になると思います。」

#### 「ベイブリッジへの電飾の提案

ベイブリッジの斜張ケーブルを利用して、五輪マークを電飾で浮かび上がらせ、ムードを盛り上げることを提案します。海外から船で来る方ももちろん、陸の方から見ても効果は高く、絵になると思います。開会数年前から行い、五色の電球を使用し、毎夜光らせます。」

#### ⑤ 交通アクセスに関する提案

これも技術職の職員からの提案。交通アクセスに関する提案は、この他にも多数の提案が寄せられたテーマである。（以下全文掲載）

#### ●交通輸送の懸念

一九九六年に開催されたアトランタオリンピックで、開催期間中の交通渋滞によって市民の生活や報道関係者の移動に大きな支障が出たことが連日報道された。

横浜では、現在でも市内全域で毎日のように渋滞が発生し、横浜駅や新横浜駅、そこに発着する鉄道各線も混雑している状況にある。ゆめはま2010プランにしたがって鉄道や道路が整備されたとしても、特に道路交通については交通問題が完全に解決しているとはあまり期待できないと考える。そこに何万人というオリンピックによる交通が上乗せされることによつて、選手や役員、報道関係者の移動だけでなく、市民の生活にも多大な影響を及ぼし、電波にのつて横浜の悪いイメージが世界中に広がる可能性がある。

そこで、オリンピック期間中及び期間前後の交通管制策を提案したい。

#### ●交通管制策の提案

オリンピック期間中及び期間前後に発生する交通を三つに分類する。

- ・海外、国内遠隔地から会場までの遠距離交通
  - ・北関東、東海地方から会場までの中距離交通
  - ・東京、神奈川からの近距離交通
- また、交通管制策の方針を考える。

#### 一 自動車交通の制御

選手や役員・関係者、報道関係者は自動車交通を利用する。観客輸送のバスや団体の観